

開眼を巡って繰り広げられる作り手たち 10 名を紹介!!

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA 企画展

HELLO 開眼



「開眼」。それは仏の魂を迎え入れること。また、物事の道理をつかみ悟るという意味も含まれています。この展覧会では、古来から人が身近に感じてきた“悟り”や“魂”など、不可視な精神的世界について考えるきっかけを与えてくれる彫刻、絵画、写真、インスタレーションを展示します。

HELLO 開眼——魂を込めるかのような、衝き動かされたかのような、見えない世界を紐解いていくかのような、開眼を巡って繰り広げられる作り手たちの表現との出会いを、心ゆくまでお楽しみください。

【展覧会の見どころ】

- ・「開眼」をテーマにした 10 名の作者を紹介。
- ・作者の表現の力を最大限に体感いただきたく、2 会場で開催。
- ・講演やバスツアーなど、展示以外にもテーマに沿った関連イベントを多数開催。

会期:2017 年 4 月 29 日(土・祝)~7 月 30 日(日)

場所:ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

カネ吉別邸

アール・ブリュット(仏: Art Brut)

「生の芸術」という意味のフランス語。Artは芸術、Brutはワインなどが生(き)のままである様子を表す。正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した、既存のモードに影響を受けていない絵画や造形などを指す。

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 (ボーダレス・アートミュージアム NO-MA)

担当: 山田・渡邊・鈴木 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2

TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228 MAIL: kikaku@glow.or.jp

出展者紹介 (広報用画像)
荒川 朋子 Arakawa Tomoko

(1988 年生まれ／京都府在住)

ご神体や呪具を思わせる木彫を多数発表している。多くの作品は「毛」があしらわれることから、グロテスクな生々しさを醸し出している。一方、シンプルで丸みを帯びたかたちは愛らしくもあり、不思議な魅力を放つ。

<http://arakawa-tomoko.com/works>

出展会場: NO-MA



①

一円 敏彦 Ichien Toshihiko

(1955 年生まれ／滋賀県在住)

滋賀県湖東地域の山奥深く。木を彫り、野草茶を楽しむ。山林に息吹く自然を見つめて過ごす日々を送る一円。住居には、木彫や陶による造形がところせましと並び、居間の中央にも、比較的大きな木彫がまるで祭神のように置かれている。

出展会場: NO-MA



②

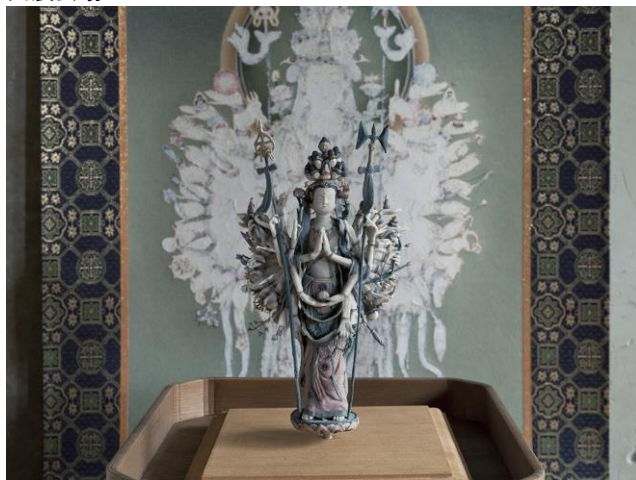
入江 早耶 Irie Saya

(1983 年生まれ／広島県在住)

一連の制作は、あたかもイメージ自身が意思を持ち、啓示を与えるために降臨したかのようにあり、観る者を神聖な気持ちで包み込む。つくられる彫刻は、対象となるイメージをケシゴムで消し、そのカスを利用して形成するという気の遠くなるプロセスを経て生み出される。

<http://iriesaya.com/>

出展会場: NO-MA



③

大井 康弘 Oi Yasuhiro

(1982 年生まれ／滋賀県在住)

大井は作品の中に、自らの体毛や大好きな木の実などを入れる。それらの素材をティッシュで優しく包み、新聞紙で覆い、さらにガムテープでぐるぐる巻きにしてできた芯材の上に粘土を足していく。大井にとっての制作は、作品と自分との距離を限りなく近づけ、ひいては分身をつくり出す行為なのかもしれない。

出展会場: NO-MA



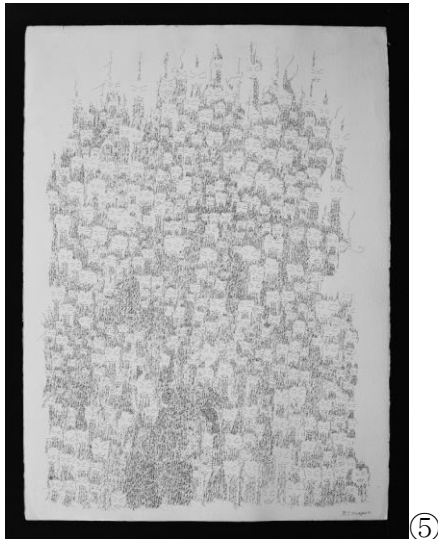
④

宮川 隆 Miyagawa Takashi

(1955／東京都在住)

沖縄県の宮古島に生まれ、東京でグラフィックデザイナーとして活動する宮川のもう一つの顔。それは、「カンカカリヤ」である。1993 年、突如、頭の中に情報が流れ出し、1 枚の絵を「描いてしまった」と話す宮川。それまで学んだどの技法とも異なる絵。自分が描いたという実感はない。描き続ける日々がスタートした。

出展会場:NO-MA



⑤

岩岡 保吉 Iwaoka Yasukichi

(1889-1977／宮崎県)

高鍋町持田を一望できる高台に高鍋大師はあり、この地には岩岡が制作した素朴かつ奔放な石仏 700 体以上が鎮座している。町一帯に群在する古墳の盗掘事件に心を痛めた岩岡は、私財を投げ打って古墳の一角を購入。古代の人々の霊を鎮めるため、そして、今を生きる人々の幸せを願い、半生かけて石仏を制作し続けた。 <http://www.kankou-takanabe.com/siteseeing/daishi>

出展会場:カネ吉別邸



⑥

木村 賢史 Kimura Kenshi

(1943 年生まれ／静岡県在住)

能、田楽の面や古刹の仏面など、約 500 点が飾られている「日本仮面歴史館 福々と神面」。これらの面は、館長である木村自らが、30 年以上かけて制作したもの。日本の心のすばらしさを伝える、という終世のコンセプトの下、独自の手法で制作を始めた木村だが、その情熱は極めて強く、ついには仮面館までオープンするにいった。

<http://www4.tokai.or.jp/omenkan/hp/omen/omen.html>

出展会場:カネ吉別邸



⑦

辻村 耕司 Tsujimura Koji

(1957 年生まれ／滋賀県在住)

人間の営みと密接する祭りや習わし、自然を撮影する辻村。時代時代で新たな要素を取り入れ不可思議な魅力を放つ祭礼。装束やかぶり物、神輿の飾り、曳山を荘厳する彫刻など伝承されるかたち。祭りのルーツには、祈りや感謝、慰霊などがあり、辻村のレンズは、そうした古来から続く人々の営みとともに、そこに流れる感情や思考そのものを捉えている。

出展会場:カネ吉別邸



⑧

宮崎 甲子男 Miyazaki Kashio

(1924-2016／福島県)

とある喫茶店のガレージ。黄金色の輝きを放つ群像に目を奪われる。「喫茶ブルボン」である。神仏を彷彿とさせる彫像や、白塗りの女性像などが密集し、裏庭や店内にも広がっている。これらは、喫茶店のマスターであった宮崎によるもの。一見すると異様な雰囲気が漂う作品は、家族や人生訓、愛がテーマとなっており、見続けていると、不思議と温かな気持ちになってくる。

出展会場:カネ吉別邸



⑨

吉田 格也 Yoshida Kakuya

(1975年生まれ／兵庫県)

吉田の表現は、特定の境界を可視化するかのようだ。来る日もペットボトルを設置する行為は、自宅から敷地外へ、自作の扇子を並べる行為は、部屋から別の部屋へ、吉田の祖母の他界がきっかけで描き始めた<天国 階段>は、現実世界から別の世界へ、それぞれの境界が際立たせている。迷いのない吉田の所作から、人が対象を「信じる」ことの原点を感じさせずにはおかない。

出展会場:カネ吉別邸



⑩

展覧会概要

タイトル 「HELLO 開眼」

会 期 2017年4月29日(土・祝)～7月30日(日)

 会 場 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA (滋賀県近江八幡市永原町上16)
カネ吉別邸 (近江八幡市為心町元)

開催時間 11:00～17:00

休館日 月曜日休館(祝祭日の場合は翌日休館)

 入館料 一般300円(250円) 高大生250円(200円) 中学生以下無料
※障害のある方と付添者1名無料、()内は20名以上の団体料金

主催 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

社会福祉法人グロー (GLOW) ～ 生きることが光になる～

後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力 喫茶ブルボン、高鍋町観光協会、日本仮面歴史館 福々和神面、社会福祉法人美輪湖の家工房和楽、社会福祉法人やまびこ福祉会 創作ヴィレッジこるり村、一般社団法人近江八幡観光物産協会、NPO 法人しみんふくし滋賀

【ボーダレス・アートミュージアム NO-MA】とは？

滋賀県近江八幡市の歴史ある重要伝統的建造物群保存地区にあり、昭和初期の町家を改築 2004年6月に開館した、社会福祉法人グローが運営するミュージアムです。

障害のある人の表現活動の紹介にとどまらず、現代アーティストの作品と共に展示し「人の持つ普遍的な表現の力」を感じることができる企画展を開催しています。

また、「障害者と健常者」をはじめ様々なボーダー（境界）を超えていく試みを実践し、アール・ブリュットを扱うミュージアムとして国内外から注目されています。

関連イベント

(1) 講演 その1「カミ宿るところ—近江の聖地」

講演 その2「姿なきカミの姿—造形への衝動」

滋賀県の歴史・民俗の専門家、大沼芳幸氏による講演。県内に数多ある山岳信仰を題材に、信仰と造形の関係を探ります。

講師：大沼芳幸（公益財団法人滋賀県文化財保護協会・普及専門員）

（NPO 法人歴史資源開発機構 主任研究員）

日時：その1 6月17日(土)13:30~15:00

その2 7月8日(土)13:30~15:00

会場：奥村家住宅（近江八幡市永原町上8）

定員：各回30名（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

(2) 講演「神様はどこにいる」

社会問題、生、死などをテーマとして、多くの著書を発表する田口ランディ氏に、不可視な世界と私たちとの繋がりについて語っていただきます。

講師：田口ランディ（作家）

日時：7月22日(土) 13:30~15:00

会場：酒遊館（近江八幡市仲屋町中21）

定員：50名（要予約）

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

(3) ギャラリートーク「ヨル ノマ ヒソヒソ トーク」

薄暗く鎮まりかえった会場を舞台に、ヒソヒソ声で作品を解説する。日中とは違う雰囲気を感じていただきます。

日時：5月13日(土)18:30~20:00

集合：NO-MA

定員：20名(要予約)

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

(4) バスツアー「ワズミさんと巡る滋賀不思議スポット」

仏教美術の専門家である和澄浩介さんと一緒に、県内の「神と仏」の聖地を巡ります。滋賀県の多彩な美、風土を感じるバスツアーです。

ナビゲーター：和澄浩介（滋賀県立近代美術館学芸員）

その1“湖北編”5月27日(土) 10:00～18:00

その2“甲賀編”6月24日(土) 10:00～18:00

集 合：NO-MA

定 員：各回25名(要予約)

参加費：1,000円(観覧料を含む)

※参加費は当日お支払ください。

※詳細は決まり次第 NO-MA ホームページでご案内いたします。

(5) 夏休みお絵かき道場「わたしの“かみさま”をつくろう」

実は身近な場所に隠れている“かみさま”を探しましょう。みつけたら写真に撮って自分の世界をつくれます。

講 師：辻村耕司（写真家、出展者）

日 時：7月29日(土)13:00～15:00

集 合：奥村家住宅（近江八幡市永原町上8）

定 員：20人(要予約)

対 象：中学生以下

参加費：無料

(6) 修行「うつし、あらわれ、“行”体験」

“かたち”を描き写す“行”を体験しましょう。心を静かにして筆を運ぶことで、無の境地にたどりつけるかもしれません。

日 時：期間中常時開催

会 場：NO-MA

参加費：観覧料

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 企画展

HELLO 開眼

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送り下さい。

媒体名：『 _____ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他 発売・放送予定日： _____

御社名： _____ ご担当者名： _____

Eメールアドレス： _____ @ _____
(〒 _____)

ご住所： _____

お電話番号： _____ FAX： _____

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①荒川朋子『ふさふさ』2014年
<input type="checkbox"/>	②一円敏彦 無題
<input type="checkbox"/>	③入江早耶『カンノンダスト(菊理媛神)』2015年
<input type="checkbox"/>	④大井康弘『ガネーシャ』2013年 photo 大西暢夫
<input type="checkbox"/>	⑤宮川隆 (タイトルなし) 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑥岩岡保吉『イネ米のカミ』1962年 photo 大西暢夫
<input type="checkbox"/>	⑦木村賢史 日本仮面歴史館 福々和神面 2001年～
<input type="checkbox"/>	⑧辻村耕司『帯掛け祭の七人子供/東近江市蒲生』2016年
<input type="checkbox"/>	⑨宮崎甲子男『喫茶ブルボン』1973年頃～2016年
<input type="checkbox"/>	⑩吉田格也 自宅の庭に並ぶ水の入ったペットボトル 2017年

プレゼント用ご招待券をご希望の場合は✓をおつけいただき、枚数をご記入ください(10枚まで) (□ 枚)

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：山田・渡邊・鈴木 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp